

横 浜 市

1 9 5 9

新市庁舎落成記念



A

B

C

A 市長室

B 市議会議長室

C 事務室



明治22年の市庁舎



明治44年の市庁舎



愛市の鐘

この鐘は、市費と婦人団体  
 体その他有志の寄付金でつ  
 くれ、市庁舎屋上の鉄塔  
 に吊下げられている。

この鐘は、朝には、市民  
 に生活の喜びと意欲をふる  
 い起す「勤労の鐘」の音を  
 正午には、なつかしい市歌  
 の一節を、夕べには次代の  
 横浜をにない立つ青少年の  
 すこやかな自立を祈る「愛  
 の鐘」のメロデーをつたえ  
 る。

新市庁舎

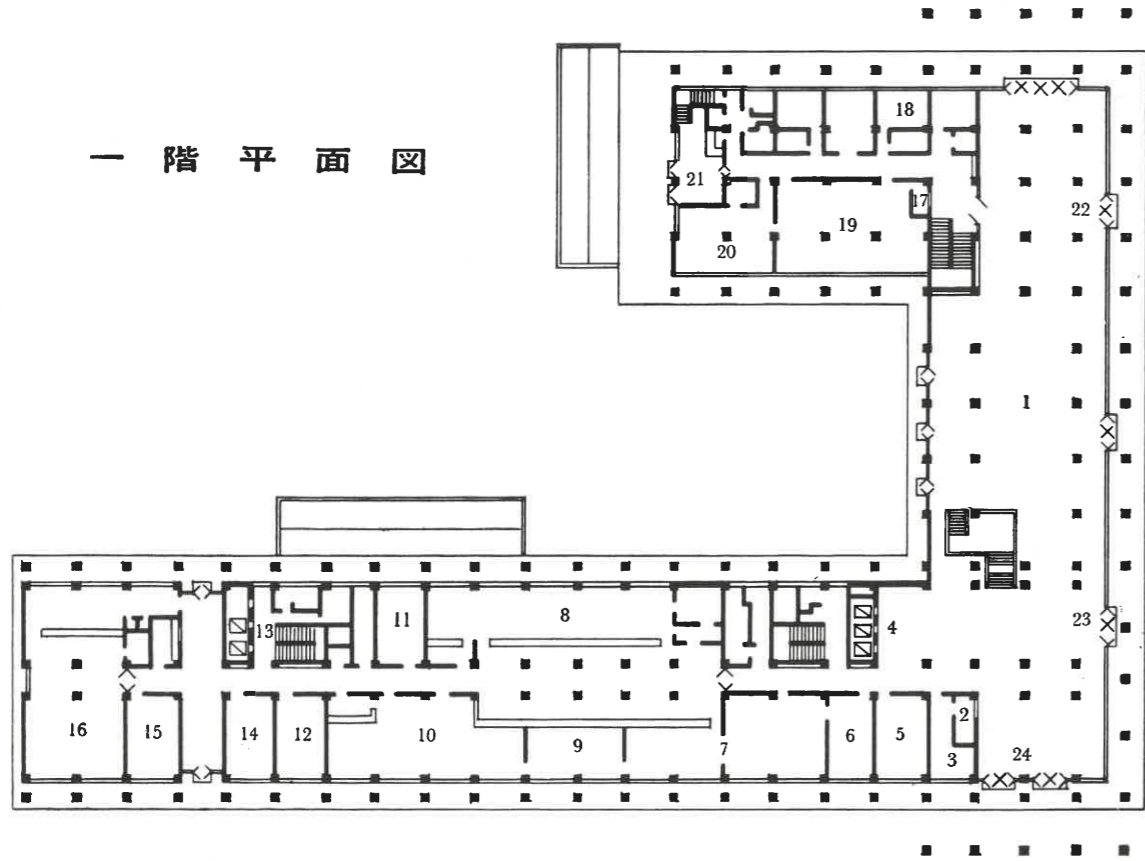




空から見た新庁舎

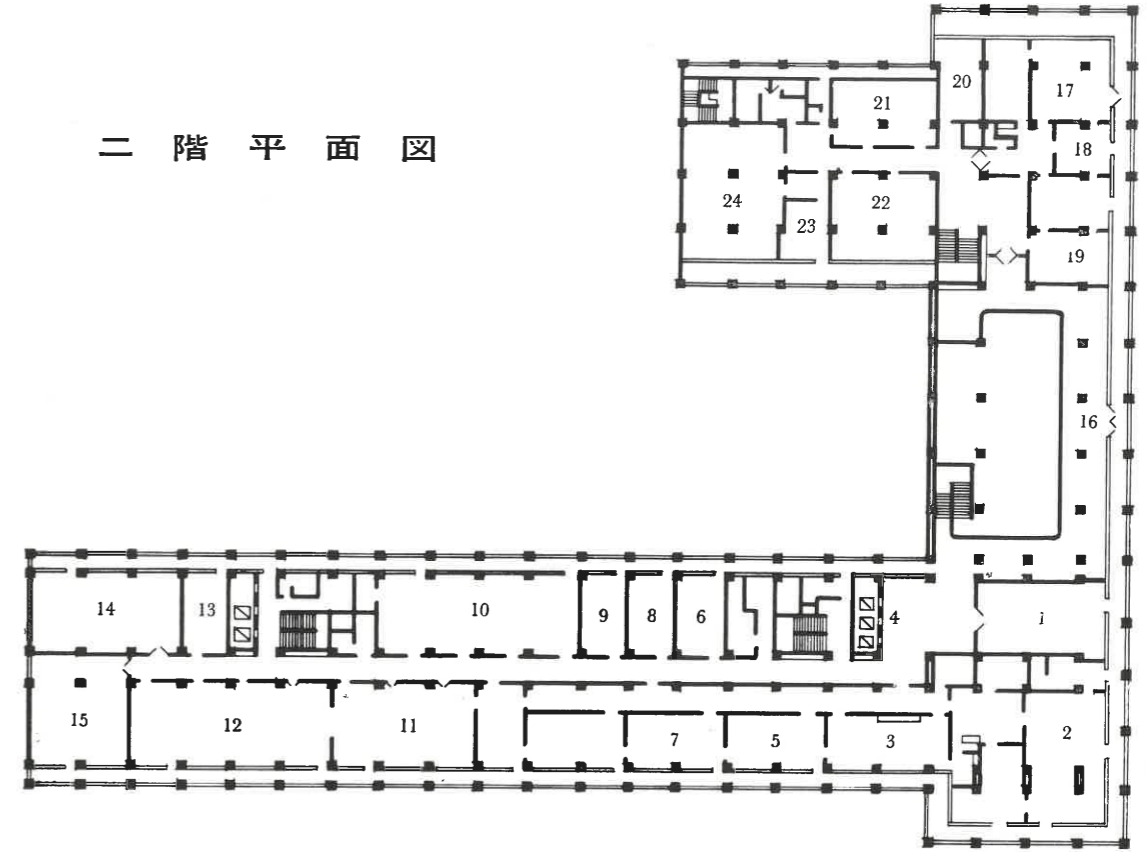


一階平面図

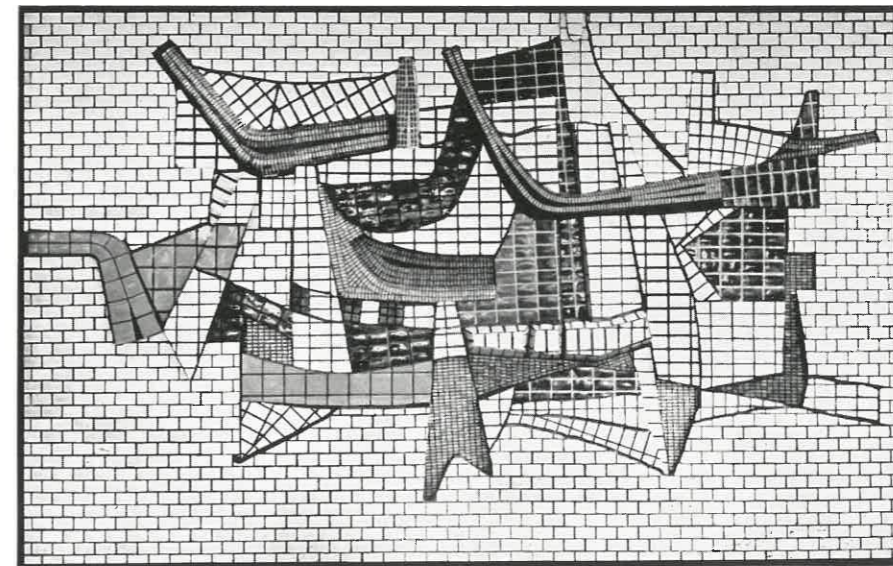
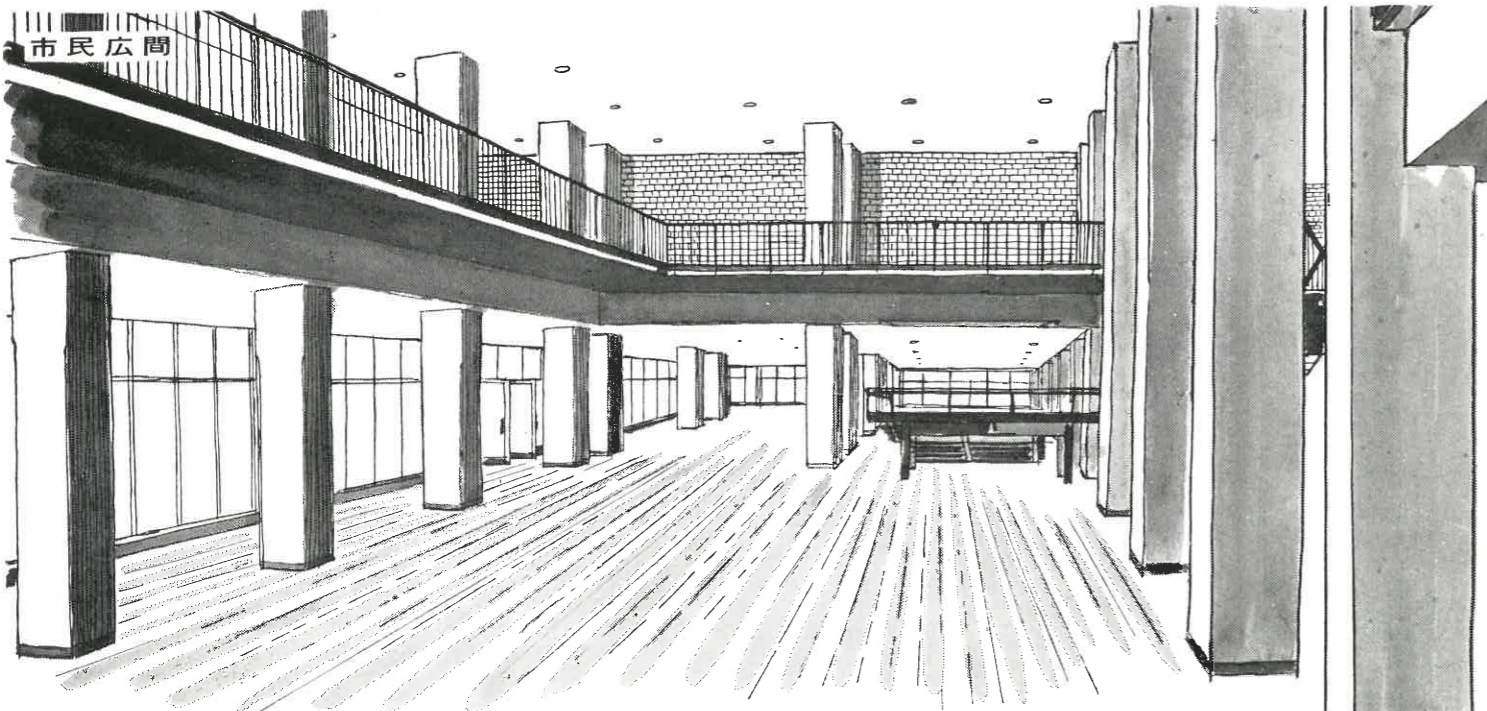


- |            |             |             |
|------------|-------------|-------------|
| 1. 市民広間    | 8. (交) 電車課  | 17. 市会受付室   |
| 2. 案内所     | 9. 市金庫      | 18. 応接室     |
| 3. 郵便局     | 10. (水) 調度課 | 19. (市) 庶務課 |
| 4. エレベーター  | (水) 経理課     | (市) 委員課     |
| 5. 市民相談室   | 11. 地方紙記者室  | (市) 議事課     |
| 6. 収入役室    | 12. 市労連     | 20. 図書資料室   |
| 7. 会計課     | 13. エレベーター  | 21. 傍聴者玄関   |
| 8. (交) 総務課 | 14. 市従      | 22. 市会玄関    |
| (交) 営業課    | 15. 文書集配室   | 23. 本館玄関    |
| 8. (交) 会計課 | 16. (財) 経理課 | 24. 本館玄関    |

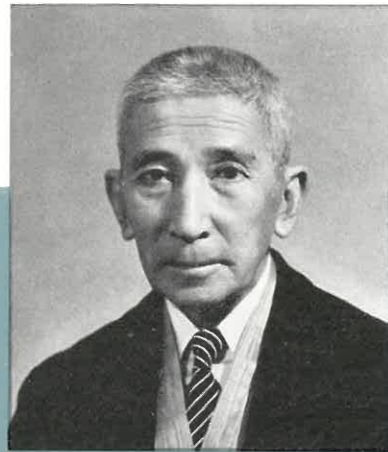
二階平面図



- |             |             |          |
|-------------|-------------|----------|
| 1. 大会議室     | 10. (総) 統計課 | 19. 副議長室 |
| 2. 市長室      | 11. (総) 総務課 | 20. 委員会室 |
| 3. 秘書課      | 12. (総) 企画課 | 21. 談話室  |
| 4. エレベーター   | (総) 調査課     | 22. 議員控室 |
| 5. 助役室      | 13. 図書室     | 23. 議員控室 |
| 6. 会議室      | 14. (総) 人事課 | 24. 議員控室 |
| 7. 助役室      | 15. 市政記者室   |          |
| 8. 浄書室      | 16. ギャラリー   |          |
| 9. 選挙管理委員会  | 17. 議長室     |          |
| 10. (総) 広報課 | 18. 事務局長室   |          |



二階のレリーフ



前市長  
平沼亮三



市長  
半井清

開港以来一世紀、港都ヨコハマが日本の運命をになって進んできた百年は、近代日本躍進の源泉であります。

この歴史ある港都にふさわしい新市庁舎が、ここに完成したことは百三十万市民のご協力と関係各方面のご後援の賜ものと厚くお礼申し上げます。

この庁舎は、前市長故平沼亮三氏が情熱を傾け一切の困難を排除し、企画立案し建設にあられたことを忘れてはなりません。完成を見ずして亡くなられた故人の霊に落成をご報告し、合せてご冥福を祈ります。

願みれば十五年前、戦いの激しさに万一を思い市庁舎を老松小学校に疎開した当時の市長だった私が、戦禍のため焼失したこの跡地に、新庁舎落成のごあいさつできることは深き因縁と、まことに感慨無量のものがあります。

この新庁舎落成にあたり、心新たに明るい豊かなみなさまの生活を念願し、前進する横浜のため、さらに微力を尽したいと存じますので、一層のご協力とご支援をたまわりますよう切にお願いする次第であります。

昭和34年9月12日

横浜市長 半井清

## 市庁舎建築のあらまし

### 設計について

本庁舎の基本設計は、競技設計によつたものである。昭和31年7月五つの建築事務所が選定され、市の意図する設計の主題、「市庁舎として市の業務を能率的に運営し、堅実であると共に国際港都横浜市の象徴として品位あり、長く誇るに足る意義ある市庁舎を建設するための基本設計たること」によつて競技設計が行われ、同年11月慎重審議の結果、村野・森建築事務所の村野藤吾氏（芸術院会員）の案が当選と決定された。

設計者は当選案の工事概要に「庁舎と市会とは市民広間をもつて連結され、この広間は市民のために解放されるものと考えられる。かくて市民と市当局との公的接触の場となる。また、平面計画および表現を通じて所要の機能を満たすと共に、努めて民主的にして、親しみをもつように考慮せり」と述べている。

### 建物について

この建物の外観は、柱・はりの主要構造部分をコンクリート打放し仕上げのままとし、壁面を作る外装用タイルは厚型のもので、あたかもレンガ積みのような表現であり、やや強い色彩を有するうわ薬が施されている。ところどころのバルコニーと窓・壁がたくみに配置されている。

この建物の一つの特徴ともいえる市民広間は二階建一部吹抜けの大広間によつて、左に庁舎の玄関、右に市会の玄関をつなぐ構成で、前面に幅50メートル・高さ7メートルにおよぶ大レリーフが展開している。このレリーフは彫刻家の辻晋堂氏（京都市立美術大学教授）による10数種類の特製タイルを用いた抽象作品で、市民広間の性格と相まって注目をひくものである。この広間から特徴ある階段によつて2階の主要な室に通じている。この市民広間は、各種の催しに使用でき、市民に解放されて広く利用されるであろう。

屋上には、鉄塔が魚網を干した形状でそびえその先端は地上55メートルにもなる。この塔に愛市の鐘が吊られている。なお拡声器設備によつて特色あるメロデーが朝、昼、晩と市民に送られる。

この建物の基礎工事は井筒工法によつたもので、工事に最も苦労したものである。横浜市の市街地は全般的に（一部を除いて）高層建築の基礎に特別の工夫を要する地盤で、この港町付近も堅硬な土丹層が深いので基礎工事には特に慎重を期し、広く研究調査の結果井筒工法によることになつたものである。井筒の数33基、深いものは直径5メートルで地下47メートルに達しており、延長1,020メートル、どの井筒も土丹層に定着している。この井筒沈下工事は高層建築として現在までに比類のない工事であるといわれている。

### …構造規模…

敷地面積	18,852 平方メートル
建築面積	4,445 平方メートル
延面積	28,331 平方メートル
庁舎	地下1階地上8階 塔屋2階
市会	地下1階地上4階一部2階
市民広間	地下1階地上2階
構造	鉄骨鉄筋コンクリート造り一部鉄筋コンクリート造り

### …電気設備…

地階の主電気室に受電、変電の設備を設け、動力設備を含めて遠方制御監視盤によつて操作する。  
予備発電機を設け停電時に備えてある。照明は、けい光灯を使用している。

### …冷暖房設備…

中央式空気調和方式により、全館を4系統に分ち、暖房については冬期温風を送り、冷房については冷凍機を設置することによつて、全館冷風を送ることができる。

### …給水設備…

本市水道水を2系統より受水し、屋上の水そうによつて所要の個所に給水する。

### …昇降機設備…

正面玄関に3台、後方玄関に2台（将来3台）を設備してある。

その他消化せん、汚水および雑排水、ごみ焼却、ガス設備などいずれも近代建築設備として最新式の方式を採用している。

### …工事経過…

起工式	昭和31年12月20日	立柱式	昭和33年6月23日
上棟式	昭和33年12月6日	起工以来	2年10ヶ月
関係業者	16社	作業延人員	199,500人
内建築関係	154,500人	設備関係	49,000人